

ので車に入れてきてくれたのだ。ついでに組み立ててくれた。

元々がニトリで買ったものだったので、近場のニトリで、マットレスを買った。売場の小母さんの話では、厚手のものほど女性に人気があるということだったが、固い、通気性もよいという、厚さ4・5センチの、店で二段ベッドで使われていたものにした。

へやの片づけをしてから秋口になって使い始めたが、緊張しているのか、夜中よく目が覚めてしまう。マットも簀の子も比較的しっかりしていたが、床にじかには及ばない。掛け布団も引っ張られて、重さをもってしまう。

布団も枕もだが、低反発のものとか、素材などで流行もあれば、値段もあるようだった。

幸いベッド自体そう高さがないので、寝室にしていた和室には合うようだ。天井が近いということもない。ただ、ベッドがあるといかにもへやが寝室然としてしまい、テレビも置いてあるが、足が遠のいてしまった。

一度落ちたことがあるが、それは目覚ましに手を伸ばしたときだった。

よい睡眠は、それがえられなかったときに、考えることがあるが、現役で働いていたときは、すぐにも寝入ってしまうので、考えることもなかった。毎日が日曜状態になると、考える必要がないかというところでもない。ベッドは昼寝にもいいよ、ちよつと寝るのにいいと、これは兄の話で、兄は昼寝をしているらしい。

### 「清紫会」だより

◆第161回 平成二十九年十一月十六日(木)、会場・文京シビックセンター三階A会議室

〈提出作品〉小野澤繁雄・近鉄(ちかてつ)／松井淑子・名前の文字について／丸山弘子・友人の恐怖

◆第162回 十二月二十一日(木)、会場・文京シビックセンター三階A会議室

〈提出作品〉市川茂子・朝の散歩／小野澤繁雄・ひげそり／林博子・柿生の里

◆第163回 平成三十年一月十八日(木)、会場・文京シビックセンター三階A会議室

〈提出作品〉小野澤繁雄・ベッド生活／林博子・私の生まれた所